

東南アジアの世界遺産を訪ねました（ジョグジャカルタ編）

ジャカルタは「Jakarta」ですが、ジョグジャカルタは「Yogyakarta」と書きます。カタカタでの表記は同じでも、実際の発音は異なるんですね。ジョグジャカルタというのは古い呼び名だそうで、最近は日本でもヨクヤカルタと記載している地図帳が出ています。でも現地の方は、ジョグジャという略称で呼んでいたような気がしました。



インドネシアでは紀元前1世紀頃からヒンドゥー教の影響を受けた文化が芽生え始め、5世紀にはカリマンタン東部でクタイ王国、ジャワ島西部でタルマナガラ王国が繁栄します。7世紀になるとタルマナガラ王国に代わってスンダ王国が台頭した一方で、スマトラ島には仏教が伝播してパレンバンを中心に入リウイジャヤ王国が建国されました。

8世紀になり、ジャワ島中部で(古)マタラム王国が興ります。王国には、北側に入リウイジャヤの流れをくむシャイレンドラ王朝、南側はヒンドゥー教のサンジャヤ王朝という2つの王統が併存していたと考えられています。なお、(古)マタラム王国は10世紀初頭に滅亡し、16世紀にイスラム教の(新)マタラム王国が建国されますが、両者に系統的な関係はないようです。

(新)マタラム王国は、ジャワ継承戦争によって1755年にジョグジャカルタ王国とスラカルタ王国に分裂しました。王朝の都として築かれたのがジョグジャカルタです。ジャワ文化の宇宙観を反映した都市計画が[ジョグジャカルタの世界観を表す軸線と歴史的建造物（The Cosmological Axis of Yogyakarta and its Historic Landmarks）](#)として2023年に世界遺産に登録されました。

ムラピ山から海岸に向かって引いた垂線を軸として、軸線に沿って、人間の生活におけるジャワ哲学思想（生命の循環、理想的な調和のとれた生活、人間と創造主との繋がり、ミクロコスモスとマクロコスモスの世界）を体現するように、建造物、記念碑、空間等が配置されています。

構成遺産は北から順に、山の守護霊が棲む靈峰のムラピ山、創造神の象徴とされる白亜の塔のトウグ・バル・プティ、スルタン（イスラム世界における君主）の住むクラトン（王宮）、受胎を象徴している楼閣のパングン・クラップヤック、南海の女王ラトゥ・キドゥルの治める靈界とされるインド洋となっています。これらは人生のサイクル、つまり受胎から神のもとへ戻るまでの流れを表現しています。

クラトンは軸線のちょうど真ん中にあり、ジャワの伝統・文化の象徴となっています。ジョグジャカルタは現在でも王室制度が存続していて、スルタンがクラトンで治政を行っています。



クラトンの西隣に、イスラム教の**カウマン・グランド・モスク**と水の離宮の**タマン・サリ**があります。タマン・サリはただの美しい庭園ではなく、人口池や水路が地下まで複雑に巡らされた防衛拠点でもありました。これらの存在は、王権がイスラム的正統性や水の信仰とも結びついていることを示しています。



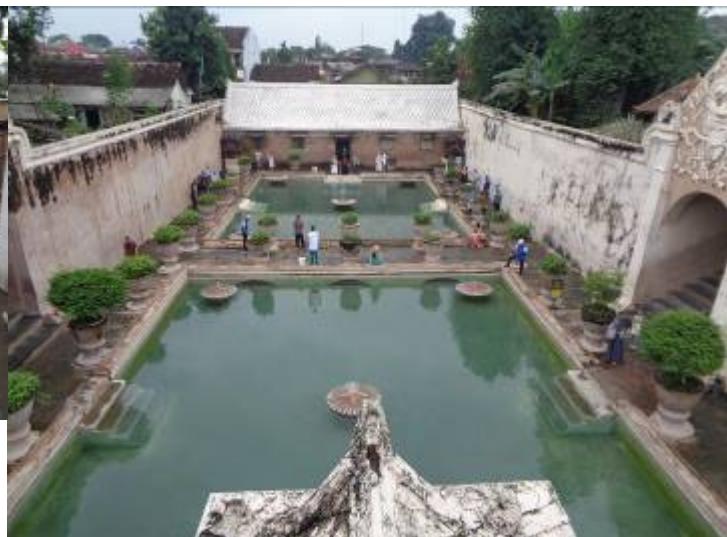
クラトンの前の広場はスルタンの権威と宇宙観を象徴しているという



カウマン・グランド・モスク



タマン・サリでは、親切なガイドさんが片言の日本語で一所懸命に説明してくださいました



ジョグジャカルタの夜は、ぜひラーマヤナ舞踊を鑑賞していただきたいです。インドの古代叙事詩を表現した伝統民俗芸能で、日本でいう歌舞伎に相当するでしょうか。驚くほど完成度の高いパフォーマンスで、特に指の先まで全く隙のない繊細な所作に感銘を受けました。

クラトンの東隣にあるプラヴィサタ劇場などで上演しています。



インドネシアでは法律で国民がいずれかの宗教に属するように義務づけられています。イスラム教が87%を占めるものの国教というわけではなく、プロテント、カトリック、ヒンドゥー教、仏教、儒教も公認されていて、信仰には寛容な国なのです。

ボロブドゥールの仏教寺院群（Borobudur Temple Compounds）はその名の通り仏教の遺跡で、8～9世紀にシャイレンドラ王朝によって築かれました。100年ほどで王朝が崩壊した後 1,000年もの間、密林の中に眠っていましたが、1814年にイギリスのジャワ島副総督のラッフルズによって発見されたのでした。仏塔、寺院、そして背景の山が調和して融合した仏教建築と記念碑芸術の傑作とされています。

中央にそびえる巨大なピラミッドのような石造物は、一辺 115m の正方形の基壇の上に、5層の方形壇、その上に 3 層の円形壇という構造になっています。これらは大乗仏教の宇宙観である三界を表していて、回廊を下から上に登っていくにつれて、「欲界」→「色界」→「無色界」と変遷していくのだといいます。頂上には、釣鐘状の大きなストゥーパ（仏塔）があり、全体として一体の立体曼荼羅（まんだら）のような形になっています。

また、自然の丘の上に土を盛って切石を積み上げたもので、内部構造がないということも特徴で、実はこの建造物が何なのかはまだわかっていないといいます。



巨大な階段ピラミッドのような建造物（本堂？）



一番下の基壇から



円形壇には 72 基の透かし彫りのストゥーパがあり
各々の中に仏像が納められている



方形壇の回廊
仏教の物語を表すレリーフが彫られている

方形壇の回廊には外壁があり、方角によって異なる印相を結ぶ仏像や、想像上の動物が彫られています。内側の壁には1,300面ものレリーフがあり、ブッダ（仏陀）の生涯など大乗佛教の教えを説くための物語を絵で表しています。



まやぶにん
摩耶夫人の脇からシッダールタが生まれる場面



ぼだいじゅ
菩提樹の下で悟りを開きブッダとなる場面



ボロブドゥール寺院の見学は完全予約制となっていて、日本からでもインターネットで予約をとれます。10名くらいのグループでガイドに着いて見学するという形式です。ただし、見学時間が限られている上に、ガイドさんもレリーフの詳細までは丁寧に説明してくれないので、あらかじめ下調べしておくのが良いと思います。遺跡保護のために草履に履き替えさせられますが、そのままお土産にもらえるのが嬉しいですね。

ボロブドゥールから東に一直線に位置する2つの小寺院も、構成遺産に登録されています。外壁のレリーフが美しいパウォン寺院と、2体の菩薩を従えた堂々とした一枚岩でブッダを表現したムンドゥー寺院です。これらの建造物は、涅槃に至る過程を示しているといいます。

歩いて見学すると5kmほどあるのでたいへんですが、地元の生活の様子をうかがい知ることができます。



(右上) パウォン寺院のレリーフは富・繁栄・施しを象徴している

(下) ムンドゥー寺院の釈迦如来像はジャワ美術の最高傑作という



ジョグジャカルタにあるもうひとつの宗教遺跡が、**プランバナンの寺院群（Prambanan Temple Compounds）**です。8~9世紀に(古)マタラム王国の初期王朝であったサンジャヤ王朝によって建立された寺院跡で、時代的にシャイレンドラ王朝の最盛期と重なっているので、ボロブドゥールを意識して設計されたのではないかといわれています。



ロロ・ジョングラント寺院



中央にそびえる主堂シヴァ神殿は47mの高さがある

プランバナン寺院群の中心にあるのがヒンドゥー教の**ロロ・ジョングラント寺院**です。中央に破壊神のシヴァ神殿、左右に創造神のプラマ神殿と維持神のヴィシュヌ神殿があり、傍らにはナンディ（牡牛）、ハンサ（白鳥）、ガルーダ（巨鳥）という神の乗り物を祀るヴァーハナ堂が並んでいます。建物の配置は方位に忠実で、厳密な幾何学的計算に基づいて区割りがなされています。

シヴァ神殿の外壁には古代インド叙事詩のラーマヤナをモチーフとした緻密なレリーフが施されています。躍動感のある表現などに、ジャワ文化の特徴が見られます。内部には4つの側室があり、シヴァ神、アガスティア（シヴァの導師）、ガネーシャ（息子・象頭の神）、ドウルガ（妻・女神）の像が安置されています。シヴァ神表現の特徴と、高い芸術性を示す傑出した宗教美術だと評価されています。



シヴァ神殿の南側室にある大きなシヴァ神の像

ロロ・ジョングラントにまつわる有名な伝説があります。

その昔、プラブ・ボコ王を隣国のバンドゥン・ボンドウォソ王子が攻め込んで殺害します。王子は、ボコ国の中の王女である王女ロロ・ジョングラントに心を奪われて結婚を申し込むのですが、王女は拒みます。王女は、一晩で千の寺院を造れたら結婚する、という不可能な条件をバンドゥンに突きつけました。ところがバンドゥンは魔力によって多くの精霊や魔人を呼び起して、夜明け直前までに999の寺院を建立してしまったのです。

慌てた王女は、侍女を起こして米を打ち始めさせ、寺院の東にかがり火を焚き、鶏を鳴かせます。精霊たちは朝が来たと勘違いして地に逃げ去ったために1,000基目の寺院はついに完成しませんでした。バンドゥンは激怒して、仕返しにロロ・ジョングラントに呪いをかけて石に変えてしまった、という話です。



北側室にある女神（ドウルガ）像は
石に変えられた王妃ロロ・ジョングラントとともに伝わる

ロロ・ジョングラン寺院の北側には仏教のセウ寺院があり、ルンブン寺院、ブブラ寺院、ガナ寺院が従属します。セウ寺院とは「千の寺院」という意味で、これこそがボンドウォソ王子が作り上げたものだ、という言い伝えがあります。多くは崩れ落ちてしまっていますが、かつては 200 基を超えるブルワラ（小祠堂）が主堂を取り巻いていたといいます。

ロロ・ジョングラン寺院がヒンデュー教であるのに対して、仏教のセウ寺院が存在することは、宗教的平和共存があったことを物語っています。



セウ寺院では守護神トワラパーラの像が目を引く

プランバナン寺院群の周囲にもいくつかの寺院があります。どれもほぼ同年代に建立されたのですが、これまたカラサン寺院とサンピ・サリ寺院もヒンドゥー教で、サリ寺院とプラオサン寺院は仏教の寺院だといいます。寺院の多くが、ヒンドゥー教のサンジャヤ王朝と仏教のシャイレンドラ王朝との間での婚姻に関わるものであったためと考えられています。



仏教寺院のプラオサン寺院（左）と、ヒンドゥー教と仏教が同居しているカラサン寺院（右）
ともに、隣接するサンジャヤ王朝とシャイレンドラ王朝との王家間での結婚を祝して建立されたと伝わる

プランバナンの建物は安山岩の切り石を積み上げたけで漆喰が使われていなかったので、1549 年の地震、さらに 2006 年のジャワ島中部地震で大きな被害を受けてしまい、現在なお修復作業が続いている。

(新)マタラム王国から分かれたもう一方のスラカルタ王国は、ジョグジャカルタから東へ数 10km、ムラピ山を西に臨むあたりにありました。この地域では、スラカルタ王国が存在したよりはるか古い時代の人類の化石が数多く見つかっています。

今回は訪れることができなかったのですが、[人類化石出土のサンギラン遺跡（Sangiran Early Man Site）](#)です。150 万年前のジャワ原人（ホモ・エレクトゥス）の化石と関連する石器が多数発見された、人種の進化を研究する上で欠かすことのできない重要な遺跡です。マンモスの歯などの化石も見つかっており、併設の博物館で展示されているようです。

<おまけの話>

ボロブドゥール寺院群を訪れる日、私は 10 時 30 分に見学の予約をとっていました。

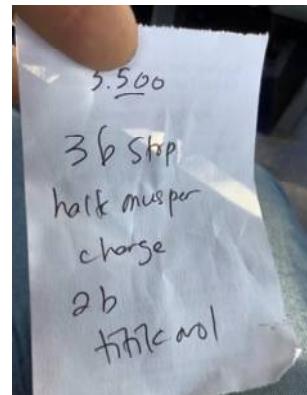
私の持っていた旅行ガイドブックには、ジョグジャカルタ市内の南部にあるギワガン・バスター・ミナルから毎時 2~4 本直行バスがあり所要時間は 1 時間半と掲載されていたのですが、バス・ターミナルには私が理解できる案内板が全然なくて、どの乗り場からどのバスに乗ってよいのか、さっぱりわかりません。

しかたなく、市内バスで市の中心地のマリオボロまで行き、さらに北部にあるジョンボール・バスター・ミナルへ行ったりしましたが、予約時刻が危なくなったので、バスを諦めて Grab アプリでタクシーを呼ぶことになったのでした。。。 タクシーは 1 時間ちょっとで 225,600 ルピア（2,000 円くらい）でした。最初からホテルにタクシーを呼べば良かったのですね。

しかしながら、インドネシア語がわからない私を助けようと、市内バスを乗り換えるためのメモを書いてくれた人や、そのメモを見て該当のバス停で降ろしてくれたバスの車掌さんや、乗り継ぎのバスに乗せてくれたバス停の切符売りの方など、たくさんの方にお世話になりました。

インドネシアの人たちの優しさが心に沁みたのでした。

プランバナン寺院はというと、嬉しいことに、市の中心部からプランバナン行きの市内バス（トランシヨグジャ）が 1 時間に何本も出ていました。片道約 45 分で 3,500 ルピア（約 30 円）と、とってもお値打ちです。



バス料金、バスの系統、バス停の名前などを書いてくれました



プランバナンへはトランシヨグジャが便利です

ローカルフードを味わうというのも海外旅行の楽しみですね。ホテルのフロントで居心地のよい小さなレストランを教えてもらい、おいしくて楽しい時間を過ごしました。



お店のスタッフはいつか日本で働くのが夢だと言っていました

NPO 法人世界遺産アカデミー 正会員
世界遺産検定マイスター 広江 淳良